

STAGE+を楽しむ(299)(HP 収載)
—イツァーク・パールマンのバッハ—

1. 始めに

前報(298)に引き続き、STAGE+のイツァーク・パールマンの Complete Recordings on Deutsche Grammophon & Decca のアルバムの中からバッハの作品の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、STAGE+のイツァーク・パールマンの Complete Recordings on Deutsche Grammophon & Decca のアルバムの中からバッハの作品の演奏を選びました。

ソリスト:

キャスリーン・バトル (ソプラノ) イツァーク・パールマン (ヴァイオリン)

演奏:

ジョン・ネルソン指揮セントルークス管弦楽団,

曲目:

ヨハン・セバスティアン・バッハ

カンタータ 第 197 番 《神はわれらの確き望みなり》

第 8 曲: 満ち足れる愉悦、穏やかなる栄

カンタータ 第 58 番 《ああ神よ、いかに多き胸の悩み》

第 3 曲: われはわれを困める悩みの中にも満ち足れり

カンタータ 第 204 番 《われはおのがうちに満ち足れり》

第 4 曲: 広き大地の蔵せる富も宝も

カンタータ 第 97 番 《わがなす すべての業に》

第 4 曲: われは御神の恵みに抛り頼む

カンタータ 第 115 番 《備えて怠るな、わが霊よ》

第 4 曲: かかる時にもまた祈り求めよ

カンタータ 第 171 番 《神よ、汝の誉れはその御名のごとく》

第 4 曲: イエスこそ、わが呼びまつる

《ロ短調ミサ曲》 BWV 232

第 23 曲: 祝福あれ、主の御名により来たる者に

第 5 曲: われら汝を頌めまつる

カンタータ 第 202 番 《退け、もの悲しき影たち》

第 5 曲: 春のそよ風のほほを撫でゆき

カンタータ 第 36 番 《喜び勇みて羽ばたき昇れ》

第 7 曲: 力なき、弱き声といえども

カンタータ 第 187 番 《彼らみな汝を待ち望む》

第 5 曲: 神はこの地上の息ある

カンタータ 第 84 番 《われはわが命運に満ち足りり》

第 3 曲: われは喜びをもてわが乏しき糧を食し

カンタータ 第 105 番 《主よ、汝の下僕の審きに拘らい給うなかれ》

第 5 曲: われイエスをわが味方となしえなば



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。さらに、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への Crystal EpY-G の接続を継続し、PC の仮想アース Crystal E Jtune に Crystal E を連結しています。また、ルーター→スイッチングハブ間の LAN 接続に OPT ISO BOX を適用し、OPT ISO BOX の AC アダプターの DC ケーブルに FX Audio の Petit Susie Solid State を介在させてスイッチング電源からのノイズの低減を図っています。

今回、スイッチングハブ→PC 間 LAN 接続は、LAN iPurifier Pro の交換後に元に戻しています。

今回は、PC の受信から GPS-777 クロック入力 of 修理済の Brooklyn DAC+ に送り出しています。

カンタータのソロの歌唱のパートには、しばしばヴァイオリンの伴奏が付きませんが、このアルバムはそのようなパートを集めたもののようです。

バトルのソプラノとパールマンのヴァイオリンの対話をネルソン指揮セントルークス管弦楽団が支えるという展開の演奏です。

バトルの清らかで透明感のあるソプラノであり、パールマンのヴァイオリンは明るいモーツァルトやダイナミックなベートーヴェンとは違って、しっとりとソプラノに寄り添います。オルガンなどの通奏低音も控えめに支えています。

今回も、GPS-777 の外部クロック入力でブツブツノイズがでる場合は、**Brooklyn DAC+**の内部クロックに切り替えました。

4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツや **Crystal EpY-G** や PC の仮想アース **Crystal E Jtune** を使用し、LAN 接続に **OPT ISO BOX** と電源交換した **LAN iPurifier Pro** を適用し、GPS-777 クロック入力の修理済の **Brooklyn DAC+**に送り出した結果、バトルの清らかで透明感のあるソプラノにパールマンのヴァイオリンがはしっとりとソプラノに寄り添っていることが伺えた。

以上